

2021 第54号

千葉支部だより



J・A・C



令和3年7月発行

発行元（公社）日本山岳会千葉支部  
〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib#jac.or.jp

（表紙の絵）

三原山、二子山（伊豆大島）

水彩画 小菅 一弘

## 「房総 Base」で夢を語ろう

千葉支部長 松田 宏也

子供の頃、近くの裏山に入り自分たちの秘密基地を作った。基地に出入りできるのは、この秘密を漏らさぬ連中のみ。登山を始めてからも自分たちの秘密基地が欲しいなあと思った。気のおけない山仲間が集まり、同じ釜の飯を食らい酒を飲み、人生を、ヒマラヤ遠征を語り合う、そんな至極の時間がもてる秘密基地（＝山小屋）を夢見た。しかしながら、夢は夢で、あった。

「♪薪割り、飯炊き、小屋掃除 みんなでみんなでやったっけ～♪」から始まる歌は、成蹊大学山岳部歌の「山の友よ」である。谷川岳のふもと、芝倉沢近くにある山小屋、虹芝寮（こうしりょう）の寮歌でもある。「♪雪解け水が冷たくてえ～、苦勞したこと、あったっけ♪」と続くこの歌を、仲間とテントの中で幾度となく繰り返し歌ったことだろう。2年前の4月初旬、私はこの歌の舞台となった虹芝寮を初めて訪れた。一見ただけで長年手入れを怠らず、「来た時よりも少しキレイにする」という申し送りがいしっかりと根付いているのがわかった。この山小屋で部員たちは互いに切磋琢磨し、技術を高め、谷川の岩壁に向かい、いつかはヒマラヤへの夢を育んだのだと思うと、こころ奮い立つものがあつた。山小屋は部員たちの特別な場であり、この場があるからこそ、さらに山を愛し、夢を追い、仲間との絆を固めることができたのだと改めて思った。

「願えば・・・願えば・・・叶う」 不思議な縁でトントン拍子に話が進み、鋸南町の里山に位置する古

民家を借りられることになり、私の長年の夢がようやく叶うことになった。建物は山小屋風ではないが、風通しの良い日本家屋はなんとも懐かしい空気にあふれ、随所に私の子供時代の記憶と合致するものがある。広い庭には大きなマテバシイがどっしりと根を張っている。ここを拠点に房総の山々を登り、千葉支部はもちろん、他支部との交流の場として活用し、山と人の世界を広げてゆきたいと思う。

この古民家の名称は「房総 Base」です。内房の里山と里海、続く海岸、遠くに富士、自然豊かな地に「房総 Base」は在ります。低山ばかりの千葉県で、果たして利用する人が本当にいるのか？の不安はありますが、特異な地形と植生、荒々しい素顔と豊かさをもつ房総の山々の魅力を多くの方に発信してゆきたいと思います。コロナ禍の時代、じっとしてればよいものを・・・かもしれませんが、こういう時だからこそ、一歩前に踏み出し、絆を強めることが大切だと私は考えています。「房総 Base」の落ち着いた空間で鳥のさえずりを聴きながら、あれやこれやと夢を語り合うのは楽しいものです。皆さんに存分に活用していただき、この Base で生まれる夢と固い絆が新たな倶楽部ライフの扉を開けてくれることを期待しています。

なお、運営は「房総 Base の会」で担当します。運営に協力いただける会員を募集しています。奮ってご応募のほどよろしくお願い致します。まずは、来て、見て、泊まって、です。（\*房総 Base の会についておよび利用規定はp6を参照ください）

## 【 目次 】

|                                                      |         |
|------------------------------------------------------|---------|
| ・ 山行記録<br>本仁田山、矢倉岳、三頭山、高峰山・黒斑山、沼津アルプス、自然学クラブ巡検⑧、⑨    | p 2～5   |
| ・ 「房総 Base」 について                                     | p 6     |
| ・ 山岳古道調査プロジェクトについて     山口   文嗣                       | p 7     |
| ・ 山行記録<br>屋久島・愛子岳ほか、花の蓑山、西棚ノ沢、長者ヶ岳・毛無山               | p 7～10  |
| ・ 役員退任に際し     塩澤   厚・高橋   正彦                         | p 10    |
| ・ あの日の山「ネパールのアイランドピーク（イムジャツエ：6 1 6 0 m）」     諏訪   吉春 | p 11    |
| ・ こんにちは     平出   正美・渡部   孝雄                          | p 12    |
| ・ 山行記録<br>会津駒、伊豆大島、尾瀬、四国・石鎚山ほか、天城山                   | p 13～16 |
| ・ ウォーキングクラブ活動報告     杉本   正夫                          | p 16～17 |
| ・ 登山教室指導者育成講習会参加レポート     藤木   亥三六                    | p 17    |
| ・ 支部山行の予定                                            | p 17～19 |
| ・ 事務局からのお知らせ                                         | p 19～20 |

### 本仁田山

### 湯下 正子

山行日(天候)：3月14日(晴れ)

参加者：L 小川和敏、山田紀夫、湯下正子、香高真奈美、三品京子、塩塚生二、竹園清隆(7名)

タイム：本仁田山登山口 9：30→大休場 10：25→  
本仁田山頂上 12：30→山頂 13：30→  
コブタカ山 13：50→大根の山の神 15：30→  
鳩ノ巣駅 15：55



13日が悪天候の為14日に変更、快晴に恵まれ登山日和。コロナ自粛で4～5か月ぶりの山登りに不安でい

っぱいだった。奥多摩の三大急登と言うので気がかりで仕方なかったのに、小川さんから私が先頭と言う指令に更に不安になった。何とか頑張らなければと大休場についた時「ほぼコースタイムだから安心して。」と言われ少しホッとして休憩。昨日の雨が嘘のように登山道も濡れていないので滑る心配もなく楽しい登山。途中富士山がくっきり見えて嬉しかった。急登が一つ

二つ三つと幾つ登ればいいのかと厳しかったが「これが最後」と言う小川さんの声に元気が出る。



頂上は私たち7人の為の予約席のようでゆっくり休憩できた。小川さんと山田さん、三品さんが温かいスープやコーヒーを用意してくれ温かさに疲れが癒された。360度の眺望に富士山も加わりやっぱり登ってきてよかったと感激。下山は時間がかかったが無事完了。帰りの中央線のトラブルのため南武線、武蔵野線周りで何とか帰宅しました。



**50歳未満は入会金と年会費2年間分を免除します！**

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費(正会員1,500円または会友3,000円)を免除します。



矢倉岳

藤木 亥三六

山行日(天候): 3月14日(快晴)

参加者: L 松田宏也、藤木亥三六(2名)

タイム: 足柄万葉公園 10:10→清水越 11:10→矢倉岳山頂  
11:30→足柄万葉公園 14:15

7時に佐倉駅に集合し車で出発。東名高速で神奈川県に入った辺りから真っ白な雪を被った富士山が進行方向にはっきりと見え、久しぶりの山行に気分が高揚した。10時に足柄万葉公園に到着し、準備運動を行い矢倉岳を目指す。これ以上ない晴天であったが、ハイカーは少なく、なだらかな登山道をゆっくりと進んだ。山頂直下の急斜面を登りきると、11時30分に360度視界が開けた山頂に到着、富士山から相模湾まで最高の眺望が拝めた。富士山は雪煙が舞っているのが見えた。

昼食をとり、来た道をピストンで下山。下山後休憩した足柄万葉公園では万葉集の歌碑が所々に建っており、1千年以上前の詩歌に触れた。また富士山を拝みに、来訪したい。



三頭山

今井 貴朗

山行日/天候: 3月25日(曇)

参加者: L 山本哲夫、山田紀夫、小川和敏、三品京子、今井貴朗(5名)

タイム: 都民の森登山口 11:44→三頭大滝 12:08→  
大沢山 13:12→三頭山山頂(西峰) 14:03→  
鞆口峠 15:10→里山の道 15:30→鞆口峠經由  
都民の森 15:49



気掛かりだった天気も曇りでまず雨は無さそうで一安心。山本さんに稲毛付近で参加者各人をピックアップ頂く。首都高の大渋滞に遭遇するも大幅な遅れなく都民の森に到着、各人腹ごしらえ、体操していざ出発。木片チップの敷かれた福寿草の咲く穏やかな道を歩くと程なく大滝。吊り橋からの姿が凛々しい。滝を過ぎて登りも厳しくなり汗をかきながら大沢山 1482m 着。途中ちらちら見えていた富士山、

頂上は見えないが雲が噴煙のように見える。大沢山で昼食、小川/三品さんコンビ特製の暖かいスープが嬉しい。

スープで元気を取り戻し三頭山頂へ。最後の急登を詰める展望の開けた西峰山頂 1524m、登頂を噛み締めながら記念撮影する。周囲の山々を眺めるのも楽しい。その後少し下って登り返し最高峰の中央峰 1531m、東峰へ、展望はあまり効かないがすぐ近くに展望台があり大岳山、御前山などを間近に見る。名残を惜しみながら鞆口峠まで急坂を下る。峠に着けばもう下山口は近い、里山の道へ寄り道して本日の登山は無事終了、やっぱり山は素晴らしい。



高峰山・黒斑山 雪山ハイキング

三品 京子

山行日/天候: 3月19日(晴) 20日(晴) 21日(曇時々雨)

参加者: L 松田宏也、清水義浩(本部理事)、三田博、坂上光恵、三田芳江、宮崎美智代、三品京子(7名)

タイム: 19日: 高峰山登山口 14:00→高峰山山頂 15:10→

登山口 16:10

20日: 黒斑山登山口 8:10→トーマの頭 10:20

黒斑山 10:50→登山口 12:30



(高峰山・黒斑山 雪山ハイキング)

19日、集合場所のスーパーで合流し3日分の食材を調達、宿泊先の日本大学ワンダーフォーゲル小屋へ向かう。当初20日21日の山行予定であったが、最終日天候が崩れる予報に日程を変更し、高峰山に登る事になり昼食を済ませ登山口へ。



ストレッチを済ませ登山開始。雪に埋もれた鳥居の脇から登山道へ入る。途中リーダーからラッセルの訓練と言われ、雪山の経験が少ないメンバーが雪をかき分け登り下りと進む。踏み抜いた足が抜けず、もがいたりしながら山頂へたどり着いた。神社にお参りし下山開始、当然ラッセルしながら登山口に戻り、駐車場をお借りした高峰

高原ホテルで汗を流し小屋へ。夕食は鍋を囲んで1日目の反省会となった。

20日、朝食は昨夜の鍋を雑炊にして簡単に済ませ登山口

へ向かう。ストレッチを行い登山開始。天気も良く雪山なのにシャツ一枚で歩く。ラッセル訓練が無いもののアイゼンは昨日に続き未装着で登る。見晴らしの良い山腹で休憩、今日も富士山は拝めないがアルプス連峰に八ヶ岳と雪をまとった山々が美しい。道幅の狭い樹林帯を抜け槍ヶ岳まで登ると正面に浅間山がドーンと現れる、そして左に目線に移すと今から登るトーマの頭への急斜面が待ち受けている。日当たりの良い斜面に雪はほとんどなく地面がむき出し状態、泥んこ状で雪道以上に慎重に歩きトーマの頭に到着。風が強く早々に移動、目指す山頂への雪道に苦労しながらたどり着いた。

早めの昼食を取り下山開始、下りの方がより滑り、教わったキックステップで雪道を歩き駐車場へ戻った。この二日間で雪山の面白さ難しさを経験した山行となった。明日は帰るのみ、温泉につかり反省会をスタート。お酒がなくなるまで大いに盛り上がった。



沼津アルプス

香高 真奈美

山行日(天候): 4月3日(晴) 4日(曇のち雨)  
参加者: L 松田宏也、節田重節、湯下正子、森川雅子、香高真奈美(5名)

タイム: 3日/沼津のホテル発 9:45→多比神社登山口  
10:30→多比峠 12:15→鷲頭山頂 12:30→  
志下坂峠 15:00 下山口  
4日の越前岳は天候不良の為中止

早朝に津田沼を松田さんの車で出発。沼津にて、新幹線で駆け付けた節田さんと合流した。タクシーで登山口近くまで行き5人で歩いていると地元のおばちゃんが「あっちよー」と親切に教えてくれた。登山口からは舗装された坂道、そしてその後は岩と木の根の道、急なアップダウンの



連続である。しかし所々展望が開け(駿河湾、伊豆の山々や箱根連山、三島市街)その眺望に歓声をあげる私

たち!また山吹やシャガの花、大島桜も各所で満開で綺麗でした。

最高峰の鷲頭山頂にてのんびりと昼食。湯下さん持参のトマトや森川さん特製の味付半熟卵は絶品でした。帰路は志下坂峠から街に下りタクシーにてホテルへ。夜は沼津港にある、節田さん推奨の寿司店で金目鯛や鮪などを堪能した。腹ごなしに狩野川沿いの遊歩道を30分歩いて帰る。今回のお宿は市街のビジネスホテル。¥4,900(朝食付き)で、地理的条件が合えばこういう泊まり山行もいいねと皆で話しました。





自然学クラブ巡検

三木 雄三

第8回巡検 鋸山は地層の褶曲で生まれた

山行日(天候): 4月10日(晴れ)

参加者: L 三木雄三、新井好夫、梶田義弘・天兵、國宗文、杉本正夫、鈴木操、高橋琢子、竹内進、竹園清隆、中場義則・久美、廣村恵美子、森川雅子、吉永英明(15人)

房総丘陵は海の底に堆積した地層が259万年～45万年の時間をかけて陸上に顔を出した上総層群で、今回の巡検はそんな山の地層見学が狙い。浜金谷駅で下車、国道を南下して名鐘岬に着く。ガイド役の竹内さんが「すごい眺めでしょう」。その声に見上げると山の斜面にはっきり地層が見えた。だが、良く見ると、鋸山ロープウエーを境に左側斜面の地層が左から右に落ち、対して右側斜面は左から右に上がり、ちょうど「V字」か「船底」のようなカーブを描いている。

この驚くような模様こそが昔海底に積み重なった地層が土地の変動と隆起運動により飴のようにグニャリと曲がりくねった褶曲(しゅうきょく)の姿なのだ。山頂近くではツツジも咲始め、富士山や天城、伊豆大島の大展望も満喫した。

第9回巡検 岩殿山と猿橋溶岩

山行日(天候): 5月22日(曇り)

参加者: L 三木雄三、大橋文(一般参加)、梶田義弘、國宗文、塩塚生二、竹内進、中場義則、廣村恵美子、山口文嗣、山田紀夫、吉田望、吉永英明(12人)

JR 大月駅に到着した下り列車の右の車窓に大きな岸壁を見せるのが634mの岩殿山。見た目は一枚岩の花崗岩のようだが、実は川などに堆積した石や砂利が固結した「礫岩」の山だ。700万年前に丹沢が関東山地に衝突、プレートが潜り込んだ際、当時の川や浅い海に堆積していた礫が地表に隆起した。ちょうどインド亜大陸がユーラシア大陸に衝突して8000mのヒマラヤが誕生したのと同じ仕組み。だから岩殿山は「ミニヒマラヤ」なのだ。そう考えると興味津々。

さて、午前9時半に集合後、大月駅から高月橋を渡り、アユの釣り場の桂川河川敷に下りて溶岩流の絶好の見学ポイント『象の鼻』へ向かう。ここで富士山から約30キロも流れ、デイサイト質凝灰岩を覆った見事な溶岩を観察した＝写真＝。



次は岩殿山へ登る。一昨年の台風で登山道が崩壊し、中腹440m付近の公園までだが、斜面には礫層が露出し、富士山や桂川河岸段丘の地形が素晴らしい。

昼食後は伝説の桃太郎に例えられる「百蔵山」や「扇山」や田園風景を楽しみながら猿橋へ。溶岩流が川幅を埋めて狭くなった所へ架けたのが「名勝猿橋」。橋の近くでは丹沢の火山灰が生み出した「グリーントフ(緑色凝灰岩)」、桂川の水で冷やされ出来た柱状節理、そんな荒々しい場所を本来の生息場所とする「ケヤキ」の巨木などに目をやり、楽しい巡検を満喫した。



## 「房総 Base」について

2021.6.1 より適用

### 1. 設立の趣旨

- ①千葉県の山々を千葉支部の会員・会友に広く知ってもらうための拠点とする。
- ②講習会、講演会、他支部との交流会を通じ、登山技術の向上と親睦を深める場とする。

2. 名称は「房総 Base」とし、管理運営と運転資金確保は「房総 Base の会」でおこなう。  
(住所：安房郡鋸南町奥山330)

### 3. 房総 Base の会とは

- ①正会員と賛助会員で構成する。
  - ◇正会員は千葉支部会員で、1口5,000円以上の運営協力金を拠出した方
  - ◇賛助会員は千葉支部会友で1口3,000円以上の運営協力金を拠出した方
- \*運営協力金で必要備品の購入をおこなうとともに利用者少ない場合の家賃支払いの補填費とする。



\*「運営協力金の振込先」；みずほ銀行蒲田支店  
(店番号197)

普通口座 2040393

口座名義 松田 宏也 (マツダ ヒロナリ)

◎恐れ入りますが、振込み手数料はご負担をお願い申し上げます。

### 4. 会計処理について

- ①当面は松田が会計を担当し、家賃の振込みと入出金管理・会計報告を毎月の役員会にて実施する。
- ②房総 Base の会は集金した利用料、立替えの精算を毎月の役員会もしくは会計と随時連絡をとりおこなう。

### 房総 Base の利用規定

#### 1. 利用にあたって

- ① 利用には、千葉支部会員もしくは「房総 Base の会」会員のどちらか1名以上の同行が条件となります。
- ② 同行する千葉支部会員もしくは「房総 Base の会」会員は予約窓口の松田と三田の両名に必ず予約のメールをしてください。
- ③ 必ず寝袋を持参ください。

#### 2. 利用時の注意事項

- ① 到着時に、家周りで異常がないかをチェックください。
- ② 利用票の記入をお願いします。帰りには最終チェックをお願いします。
- ③ 部屋は傷つけぬよう、備品は丁寧に扱ってください。
- ④ 火器使用には十分注意ください。
- ⑤ 利用後は清掃、整理整頓をお願いします。特にトイレはピカピカに！
- ⑥ 照明、TVの電源OFF、水道蛇口の閉を確認ください。  
(ブレーカーは落とさない⇒トイレ臭気筒が常時運転のため)
- ⑦ 冷蔵庫はコンセントを抜き、扉は開放してください。
- ⑧ ゴミは持ち帰りをお願いします。
- ⑨ 戸締りの最終確認と駐車場のイノシシ防護柵をセットください。

#### 3. 利用料金

\*千葉支部会員・会友の如何に拘わらず利用料は以下の通りとします。

「宿泊料」

- ◆ 大人 1,500 円/日  
(小・中学生は 750 円、幼児は無料)

「日帰り」

- ◆ 500 円/日  
(幼児の無料以外は 500 円)





## 山岳古道調査プロジェクトについて

山口 文嗣



### 千葉支部より鹿野山古道が選ばれる

本年4月発行の支部だより第53号にご案内の通り、日本山岳会の山岳古道調査プロジェクトがスタートしました。3月末までに全国の支部から本部プロジェクトチームに二百数十の調査対象古道が推薦されました。千葉支部からも「鹿野山道（嶺岡往還）」、「花嫁街道」、「頼朝鎌倉入りの道」の三古道を推薦しました。この中から本部プロジェクトチームが第1次調査対象として59古道を選定いたしました。千葉支部からは「鹿野山道（嶺岡往還）」が第1次調査の対象に選定されました。鹿野山道は木更津から鹿野山を越え、金東で長狭街道に出て鴨川に至る約45kmのルートです。途中の鹿野山は日本武尊が東征の際、鹿野山にいた豪族阿久留王（あくるおう）と戦い征伐したという伝説があります。山頂にある神野寺は約1400年前聖徳太子により開山された古刹であり、鹿野山道は東西南北からの参拝道の一部でもあります。

他支部推薦の第1次調査対象には八十里越古道（福島支部・越後支部）や箱根旧街道（神奈川支部）、塩の道・千国街道（越後支部・信濃支部・本部PT）といった定番古道の他に、坂本龍馬脱藩の道（四国支部）のような興味深いものもあり期待がもてます。

今後は各選定された古道ごとに、個別に支部と本部プロジェクトチームが具体的な調査方法、発表形式等を検討しながら調査を進めていく予定です。詳細が決まりましたら改めて会員・会友の皆様のご協力を得ながら調査を進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

## 山の豆知識

「※※山」を「～さん」と呼ぶか、「～やま」と呼ぶか？

「～さん」；昔から宗教的な意味合いから信仰され、登られた山 — 富士山、白山、石鎚山・・・

「～やま」；宗教的な色合いは薄く、地元の山として親しまれてきた山 — 鋸山、雲取山、・・・

一般的に、唯一の大きな例外が三霊山のひとつである「立山（たてやま）」とされています。

ほかにも、山のことを「※※岳」と呼んだり、「※※嶺、峰」と呼んだり・・・

「※※岳」の代表は、険しいことで名を成す剣岳に始まり、槍ヶ岳、北岳、仙丈ヶ岳・・・

「※※嶺、峰」は大菩薩嶺、霧ヶ峰、・・・

「～岳」は特に険しい山のことを表現することが多いとか。（山の上に丘？）

「～嶺、峰」は山状の地形の中で少し高いところを指すようです。



新緑の屋久島・愛子岳ほか

三田 芳江

※個人山行

山行日/天候：4月2日（曇りのち雨）、4日（曇りのち雨）、  
5日（曇りのち晴れ）、6日（曇り）

参加者：CL 小川和敏、SL 三品京子、平出正美、吉田望、  
宮崎美智代、三田芳江（6名）

タイム：2日/白谷雲水峡入口 8:30→苔むす森 10:00→辻峠  
10:35→太鼓岩 10:55→白谷雲水峡出口 12:45  
4日/ヤクスギランド入口 8:30→蛇紋杉 9:30→

天文の森 10:05→大岩 11:05→太忠岳 12:05→  
ヤクスギランド出口 16:10

5日/愛子岳登山口 6:35→しるべの木 8:55→標高  
1000m 9:30→ロープ場 10:00→愛子岳 10:30→  
愛子岳登山口 14:45

6日/白谷雲水峡入口 9:20→苔むす森 10:30→辻峠  
11:10→太鼓岩 11:25→白谷雲水峡出口 13:10

(新緑の屋久島・愛子岳ほか)

昨年11月の屋久島山行から約5ヵ月ぶりの屋久島だ。今回は応用編ということで…

2日：雨のため楠川歩道から歩く予定を白谷雲水峡入口からに変更して太鼓岩に向かう。屋久杉等の巨木が立ち並ぶ中、溪流沿いを進む。「もののけ姫」の舞台になった苔むす森で休憩。雨が降り静けさが増し森は白く幻想的だ。辻峠で一息ついて太鼓岩(1050m)を目指す。急な斜面を登り太鼓岩に着いたが自分の足元しか見えない。真っ白だ!!「新緑とヤマザクラ」の絶景は最終日に期待して幻想的な森を引き返した。

午後からは屋久杉自然館で屋久島の歴史と自然、屋久杉の伐採基地だった小杉谷集落の暮らしを学び、安房港近くの日本近代化産業遺産の安房森林軌道トロッコ発着所跡を見学した。

3日：雨のため破沙岳登山を断念。島内一周ドライブに変更。西部林道・半山で照葉樹を楽しむ。

4日：ヤクスギランド内の整備された歩きやすい道を屋久杉を見ながら気分よく進む。小さな徒渉の後、山道に入る。1時間ほどで蛇紋杉に着き四阿で休憩。ここからが太忠岳への登山道で急登が始まり、道も険しくなる。滑りやすい木の橋を渡り、木の根を避け注意しながらゆっくりと登る。天文の森で小休止。ここ小花山周辺は切り株や小杉が苔に覆われ、針葉樹の巨木が立ち並ぶ。「縄文杉」を小振りにしたような樹齢2000年とも言われる風格のある「釈迦杉」が現れ、大岩で小休止。

岩場が変わり、急な斜面と岩を登り続け花崗岩の山肌を右に巻くように少し下ると天柱石の直下に。ロープを使い台座のような岩を登り、巨大な天柱石とご対面! 標高1497mの山頂に天を衝くように聳える40mの奇岩。見上げて大きさに驚く。見る角度によって形が変わる。自然の造形美に感嘆。雨が

降ってきて天柱石からの景色はまたしても白く煙る幻想的な風景…。遠くに見えるであろう太鼓岩を想像して岩の上から下りた。途中の大岩で昼食。復路も足元に注意しながら下り出口に戻った。

5日：立派な案内板のある愛子岳登山口。海拔200mの登山口から1235mの山頂を目指して歩き始める。登り始めは緩やかだ。100m毎に標高標識、200m毎に樹種表示の看板が立っていて道に迷うことはない。照葉樹林の中をゆっくり歩く。標高300mを過ぎた頃から一気に傾斜がきつくなり、急登が続く。樹種表示の看板の木々の種類を確認する余裕もなく、ひたすら眺望のない背の高い森の中を登る。木の根や岩が露出していて滑りやすい。900m少し緩やかになった所に「しるべの木」と言う苔むした切り株があった。

その先の明るい照葉樹林の隙間から愛子岳山頂の岩山が見えた。1000m今までより更に急になり、まだ続くのかと思う程の木の根と岩の長い急斜面が続く。大きな岩の上から綱引きの綱のような苔が付いた太いロープが垂れ下がり、それを使って上ると1100mまた長いロープが待っていた。これをクリアしてやっと山頂直下へ。

森林限界を抜け今まで全くなかった眺望が現れた。嬉しくて「見えたよ〜!」と叫んでしまった。リュックをデポして山頂直下のほぼ垂直に立ちはだかる岩をロープを伝って上に、そして最後のロープで岩を登り詰め、やっと愛子岳山頂に到着。頂上からは360度の大展望! 屋久島へ来て5



日目で待ちに待った青空の下に広がる山と海に出会えた。眼下に広がる新緑とヤマザクラのコラボレーション、遠くに見えるのは奥岳の宮之浦岳、青空と白い滝雲のコントラスト。頑張ったからこそのご褒美を頂いた感じ。山頂からの美しい眺めを堪能し、山頂直下の平らな場所で温かいカップ飯を食べてから復路へ。慎重に下り無事に登山口に到着。「愛子岳」名前は可愛らしく見た目はピラミッド型の秀麗な姿、だがなかなか手強い山でした。

6日：屋久島で過ごす最終日。羽神の滝は予定から外して太鼓岩のみに。山行初日のリベンジなるか? 予報はまずまずの天気。白谷雲水峡に着き準備体操をして出発。入口近くの渓谷の岩の上でウェディングドレス姿の花嫁、花婿が撮影していた。苔むす森、辻峠を過ぎ太鼓岩へ。どんな景色が見られるか〜期待と不安が入り混じる。

山頂付近が何だか白っぽい…ガッカリかと思ったら、全てが見えたわけではないが眼下に新緑とヤマザクラ、白骨樹が見えた。良かった良かった!!最後に目的を達成する事が出来て満足して復路へ。宮之浦港近くで昼食後、屋久島で無事に過ごせた事に感謝し益救神社でお参りをして宮之浦港へ。屋久島の山旅(応用編)が終了しました。





花の蓑山

山田 紀夫

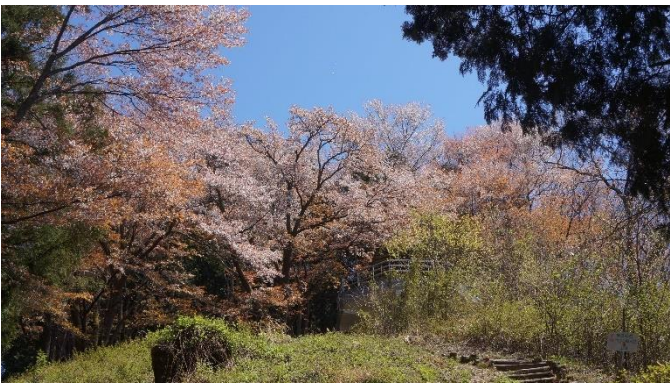
山行日(天候): 4月10日(晴れ)

参加者: L小川和敏、山田紀夫(2名)

タイム: 秩父鉄道親鼻駅 10:20→登山口 10:30→お犬のくぼ 11:25→蓑山山頂(581m)・昼食 12:10→和銅遺跡→聖神社 14:10→和同黒谷駅 14:30

その昔、農作物の不振が続いたとき国造秩父彦命が山に登り緒神を祭り祈念したところ豊作になった。その時、命が着ていた蓑を松の木に掛けた松を「蓑かけ松」といい、以後、山の名前を「蓑山」としたといわれている。(蓑山神社より)

親鼻駅から歩き始め萬福寺の先の小さな鳥居をくぐり、登山数調査カウンターを押し山道に入る。クヌギ、コナラの広葉樹林の山道を歩くとマムシ草、イカリソウそして群生しているニリンソウなどの草花、ツツジやミツバツツジが彩る。すこし歩くと「お犬のくぼ」(「狼久保」という土地名らしく昔、ニホンオオカミが生息していたともいわれている)とよばれる小さな石室みたいなものがあった。さら



に途中には蓑山神社、榛名神社の小祠もある。

車道を横切り関東ふれあいの道と合流し、やや急な斜面を登ると「みはらし園地」に着くが景色は良くない。ここから少し歩くと芝の広がる「美の山公園」(埼玉県に桜の名所を作ろうと蓑山に10年の歳月を掛けて桜を8000本植栽し、現在は関東の吉野山ともよばれている)に着く。山頂には展望台があり秩父の眺めが素晴らしい。武甲山が美しい三角形の山姿を見せ、台形でどっしりした両神山もよく目立つ。山の斜面は少し散りかかっていたがうすいピンク色のソメイヨシノ、ヤマザクラや赤みがかった八重桜などで彩られていた。



下山は秩父鉄道黒谷駅へ下る。はじめはヤマザクラの林で途中から雑木林になり民家の裏から車道に出てしばらく行くと「和銅遺跡」(708年元明天皇、我が国初の自然銅が見つかり朝廷に献上された。朝廷は年号を和銅と改め、その後「和同開珎」が鑄造された)や「聖神社」(ご神体は自然銅)があるので立ち寄り、14:30無事、和同黒谷駅に着く。



西棚ノ沢

宮崎 美智代

山行日(天候): 4月18日(晴)

参加者: CL三田博、三田芳江、三品京子、宮崎美智代(4名)

タイム: 的様 8:25→西棚ノ沢 8:45→鳥ノ胸山 12:00→的様の 14:30

二日間の予定が悪天候のため、日帰りに、川の水量によっては、加入道山登山に変更での出発となった。目的地付近の川の水量を確認後決行を決め、的様のPで沢支度後入



溪。しばらく行くと最初の滝に遭遇。5m以上はありそうな滝に圧倒されたが上手く階段状に足場があり皆スムーズにクリア。滝を越えると平らなナメ。新緑と清流に癒されたのもつかの間、第二の滝が現れた。ここは安全にロープを使用する事に。林道と交差する日溜まりで小休止、再び上流へ。

水量も減り源流の様相、谷が深く苔むしてきた。手足を最大限に使っても登るのが困難な場面も。もう前方は見渡す限り急峻な状態になり、いよいよ尾根道目指して詰めの斜面に入る。花崗岩が風化し真砂土で足場が悪く、木の根、笹に頼り最後は四つん這いでずりずりと這い上がった。登山道の存在をこんなにありがたく感じた事はなかった。鳥ノ胸山山頂では富士山が優しく私たちを迎えてくれた。これが沢登り入門のレベルかと奥深く感じた。



長者ヶ岳と毛無山

今井 貴朗

山行日/天候：4月18～19日（快晴）

参加者：L 松田宏也、湯下正子、今井貴朗（3名）

タイム：18日／田貫湖登山口 10：00→展望台 10：45→長者ヶ岳山頂 12：20→登山口（下山） 14：15

19日／麓登山口 8：43→三合目 9：45→7.5合目（1670m）12：00→展望台（9.5合目）13：15  
→麓登山口 17：25

当初17日（土）出発予定を天候悪化にて1日遅く18日に変更、これが大正解となった。6時半に津田沼集合、高速もガラガラで快調に目的地、田貫湖畔の登山口に到着。雄大な富士山を目前に体操して、さっそく登山開始。雲一つ



ない陽射しの中、初夏の登山である。前日新雪を冠ったのだろうか、白く輝く冠雪がまぶしい富士山を仰ぎ見ながらの登山である。頂上

が近づくとつれ冷たい強風が吹くようになり、肌寒さを感じて上着を着こむと強風も心地よいものである。程なく山頂着、大きさを増した富士が目前に。今まで様々な山から富士を見てきたが、これほど大きな富士を見るのは初めてだ。感動と共に記念写真に収まる。強風の中、昼食を済まして下山へ。やっぱり登りよりも下りは快調だ。登下山口となった田貫湖もまた山とは違って心地よい。田貫湖に浮かぶような富士の絶景に再び心を奪われてしまう。絶景を堪能した後は楽しい夕食。メガ盛り餃子を肴にビールがすすむ。中華三昧の酒宴はいつになく楽しく盛り上がる。明日への期待を夢枕に心地良い眠りにつく。

翌日、目が覚めると部屋に強い日差しが差し込んでいる。外に出てみると宝永火口が迫ってくるような富士山が青空

に浮かんでいる。今日も快晴だ。朝食を済ませ弾む心を抑えながら宿を出発する。今日は麓っぱらキャンプ場奥にある麓山の家



の家の登山口から毛無山を目指す。それにしても平日なのに東京ドーム数個分のキャンプ場はテントの海。さすが富士が美しく雄大なキャンプ地だ。

雲ひとつ無い青空の中、今日も素晴らしい登山になりそうな予感を感じながらのんびりと登山開始。林道を歩いた後、渡渉して本格的な登りとなる。昨日とは違って変化に富んだ登りが続く登山道をマイペースで登っていく。標高差約1100mの登りは殆ど休み無く急坂が続いている。所々の岩場がアクセントになって楽しさを加速していく。只、ひたすら登りが続く道は人によっては辛いかもしれない。それが楽しめるようになると、登山にどんどん嵌ってしま

うのかかとも思いながら・・・

さすがに急登の連続で後半ペースが落ちたか、はたまた素晴らしい富士に見とれ過ぎたのか。9合目を過ぎた辺りで毛無山山頂を目指すのは少々難しい時間になってしまった。9.5合目の展望台で引き返すことに。山頂は次回の宿題だ。目前に広がる雄大な富士山に別れを惜しみながら、登ってきた道を噛み締めるように下山の途に就いた。それにしても、大きな富士に抱かれ、感動した印象深い2日間だった。

今回、役員～監査役を務めて頂いていた塩澤 厚さん、高橋 正彦さんが退任となりました。

長いこと、本当に有難うございました。



監査役退任にあたって

JAC 千葉支部は2007年に設立されました。初代の監査役は竹島正義さんです。それから佐藤明夫さんとなり、その後任に塩澤、高橋の二人が引継ぎました。会計担当で言うと小沢さん、湯下さん、現在は三品さんです。会計は煩雑で大変です。私は塩澤さんのサポート役です。塩澤さんも私も山と山仲間が好きです。何故ならソロ登山家はゼロとは言いませんが山の会には入会しないと思います。後任の甘楽さんと能美さんは監査役ばかりでなく、山行リーダーとしても積極的に活躍されることを切望しております。（塩澤・高橋 記）



## あ の 日 の 山

## ネパールの山旅

## —アイランドピーク（イムジャツェ：6160m）—

諏訪 吉春

2006年に日本山岳会に入会した新入会員の皆様方と同期会「101の会」（現：同好会みちのり山の会）を立ち上げました。同時期に千葉支部設立のお手伝いが始まり多くの山の仲間達と交際する事になりました。私の思い出の山は悔恨に繋がるネパールのアイランドピーク（イムジャツェ：6160m）での撤退です。同期の一人に山と溪谷社「ネパールピークハントトレック」の著者、I氏がおり、必然的に同期会諸氏は毎年のネパール山行を実施。一か月近くの休暇が必要なネパール山行には現役サラリーマンには許されず、仲間達の羽田からの出発を専ら羨ましくお見送りする限りでした。2011年に定年を迎えた私に、同期の先輩H氏が還暦のネパール山行を企画してくれました。彼は関西の実業家にしてプロの山の写真家白旗史郎に長年指導を受け、毎年複数回の写真撮影でネパールを訪問しており、現地事情に詳しい方でしたから実に詳細な登山計画書を用意してくれました。

登山隊は我々4名を含め、クライミングシェルパ（以下CS）3名、スッパ（料理長）、キッチンボーイ2名、ポータ10名の20名で、現地での食材は米を含めて全て日本製品の空輸で調達した。ルクラからエヴェレスト街道を歩き5日目、アイランドピークのトレイルルートに入る。本格的な高度順化に備えて途中の二つの山に登る。ナガルジョンピーク（5083m）とチョクンリーピーク（5546m）で、両山とも快調なペースで登れた。CS頭のダワ氏より「諏訪さん、アイランドピークは登れるよ」とのお墨付きを貰った。アタックキャンプ（以下C1）は5600mで高度順化ができた事が理由でした。ベースキャンプ（以下BC）出発前に180cmを超える大男のCSカ



ジ氏が助っ人として合流する。彼は三月に英国登山隊を率いエヴェレスト登頂を果たしている。BCへ向かう途中での彼の速いペ



ースに合わず苦勞をした。BCでの起床時でのオキシメーター計測で私の人差し指の数値は60%台に低下していた。



高度順化のカガルジョンピークにて

翌日のC1での出発は最後の雪壁の一番ロープを確保すべく深夜の23時となった。酸素ボンベを使い睡眠を取るも全く眠れず重い体のまま、岩尾根をジグザグに登る。今迄に経験した事がない程の苦しさだ。登り切ったアイゼンの装着場所で休憩。苦しく酸素が取り込めない。過呼吸の状態を察してカジ氏が酸素ボンベをザックより取り出して装着。意識が朦朧としているが、不思議と私を取り囲んで心配してくれている仲間の会話は聞こえていた。「眼が虚ろでおかしい」「もう無理だ、撤退しよう」最後に、隊長が私に訊いてくる。「どうする、無理か」ここで自分が一言、止めると言えば良かったのだが、「もう少し、登らせて下さい」と謔言のように言って、撤退に同意しなかった。最後に隊長の一言が自分の全身を電流の如く貫いた。「ばかやろう、諏訪、死んでもいいのか」そして、決断してこう言った。「よし、ここで全員撤退しよう」皆さんの力を借りて下山路を降りながら、私は自分の至らなさで他のメンバーが登頂の機会を逸した事に何とも申し訳なく全身の力が抜けてキャンプ地にたどり着いた。テントに入る際に心優しい山の先輩は私にこう言って慰めてくれた。「諏訪、良かったじゃないか、初めて来て6千まで登れて」涙が滂沱の様に私の頬を流れた。

千葉支部2代目支部長・諏訪吉春さんの印象に残る山でした。



## ♪ こんにちは ♪

### 「山の日」が支部との出会い

平出 正美



山の経験は全くなく、ただ野山を歩くことが好きで内浦山県民の森主催のトレッキングに何回か参加していました。初めての山の日 2016年8月11日に、県民の森と山岳会千葉支部との伊予ヶ岳合同登山のコラボがあり、移動するバス内で三木前支部長とお会いし、更に、頂上で山本さんが入れてくれたコーヒをご馳走になりました。とても楽しそうな会と思い、誘われるままに会友として入会したのがスタートです。

暫くは毎月の四水会に参加していましたが、ある時、酔った勢いで飲み会のために入会したのではないと話したところ、翌月に白馬の山行があるので行けばと勧められ、スポーツショップで帽子から靴まで全てをそろえて出か

けたのが登山の始まりです。

白馬岳山行での山小屋、雪渓、高山植物のお花畑、初日の出、稜線歩きなど等全てが初めて尽くして、同伴の皆さんが親切に教えてくれたことも相俟って登山にはまり込みました。その後、支部の方々と岩手山、越後駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、佐渡ヶ島、信越トレイル、屋久島宮之浦岳、月山ほか、数多くの登山を体験しました。特に2019年のネパールへのヒマラヤトレッキングは、感動と衝撃の山旅でした。

今年古希を迎えました。経験、技術、体力のない私ですが、楽しい登山を少しでも長く続けていきたいと思ひます。

一緒に会員となった渡部とは家も近く小学校からの同級生です。スキーの趣味も同じで、毎年二十日あまり長野から北は岩手まで滑っています。

今回会員への推薦を頂いた大先輩の吉永様、節田様に感謝し、支部の皆様方との出会いを大切にしていきたいと思ひます。何卒これからもよろしくお願いします。



### 平出さんに引き続き・・・

渡部 孝雄

3年前から千葉支部の会友となっておりましたが、今年の2月に吉永さん、節田さんに紹介者となっていたき会員となりました茂原市在住の渡部孝雄と申します。千葉支部の会友になったきっかけは、同級生の平出が先に千葉支部に入っていて、山・スキーの話を同窓会の時に話をしたのがきっかけになったような気がします。

私が山を始めたのは、就職してから西沢溪谷に同僚とハイキングに行き自然の素晴らしさに感動して、周りの高い山に登ればもっと素晴らしい景色に出会えると思ひ徐々に高い山に登り始めました。山を始めた頃は殆ど職場の山好きの同僚5人位で登っていました。最初に2500m以上の山に登ったのは、金峰山(2599m)だったと思ひます。一番高い富士山(3776m)、2番目に高い北岳(3193m)、3番目に高い間ノ岳(3190m)に登りました。

入会する前の山行きの多くは、ホリデーパスを使い日帰り、大月あたりの山に登ったり、車で1泊で行ける山に多く登っていました。安達太良山では、1日雨の中の行軍。那須岳では、強風に遭遇。燕岳(2763m)からの下山中、雷雨に遭ひ怖かった思ひ出もあります。千葉支部に入会して、いろいろな山に安全に登らせていただき入会して

本当に良かったと思ひています。

私事ではありますが、山の良い時期と田植え・稲刈り時期が重なってしまい残念でなりません。今後は、登ったことのない山、山頂からの眺望が素晴らしい山、高山植物が綺麗に咲く山、高い山が綺麗に見える山に登ってみたいです。昔の仲間とも年に3回位は個人山行をしています。私が参加するときは必ず車を出しますので誘ってください。

新型コロナが終息しないと山行に参加は難しいです。理由は家に小さな孫が2人居るので、その母親に感染したらと思うとなかなか難しいです。終息したら参加しますのでよろしくお願いします。現在は、外に出ないように自力で焚き口を大谷石、釜を耐火レンガ造りの2層式ピザ釜を作成中で9月頃の完成を目標に・・・。





会津駒ヶ岳

三田 博

山行日/天候 4月23日(晴)、24日(晴)、25日(曇り時々小雨)

参加者：L 三田博、三田芳江、三品京子、宮崎美智代(4名)

タイム：23日・6:00 市原…檜枝岐ミニ尾瀬公園を散策  
 /24日・6:30 民宿→7:00 会津駒登山口→  
 11:20 山頂 11:50→14:20 登山口→  
 14:50 民宿  
 /25日・6:55 登山口→巽沢山 8:10→9:05  
 登山口

加齢とコロナによる運動不足からなのだろうか、最近急に体力の衰えを感じるようになった。5年前のGWにも会津駒には登ったが、きつかったという記憶は無い。苦しい事は忘れてしまうからなのか…。今回は登りも下りもやけに長く感じられた。

二泊した檜枝岐の「民宿こまどり」は滝沢登山口にも近くて便利、朝食も5:30に出してくれた。この時期は食事に出る山菜も一番豊富なシーズンなのだという。珍しい山菜以外でも名物の十割そば、岩魚の塩焼き、鹿肉の味噌陶板焼きなど、どれもおいしかった。

24日、国道からの滝沢林道は冬期通行止めのため、ショートカットを使って登山口まで30分ほど登り、木製階段を上ると急登が始まる。そこから息を切らせて夏道を30分ほど登ると、いよいよ雪が出てきた。午前中の雪なのでまだ緩んではなく歩きやすい。1800mあたりの急斜面手前でアイゼンを着ける。森林限界に出るとようやく頂上が見えてきた。駒の小屋には寄らずトラバース。緩やかだが長いスロープを一步一步登り、2132mの会津駒ヶ岳山頂に出た。風も無く穏やか。青空と360度の大展望にみんな満足である。ゆっくり昼飯を食べて30分ほど休憩、「このまま、ここで昼寝したいね」などと話す。雪山の絶景が名残り惜しいが、来た道に戻ることにする。

翌25日は窓明山に登る予定だが、午後から天気が崩れる予報。行ける所まで行こうということで、保太橋沢近くの国道352号線の路肩スペースに車を止める。歩き始めはトラロープが何本も繋がった急斜面で、一気に標高を稼ぐ。途中から残雪の尾根と気持ちの良いブナ林を歩くが、雨がポツポツ降り出す。目指す山の方角もガスがかかっていて眺望も期待薄なので、一つ目のピークである巽沢山(1162m)で引き返すことにする。しかし、前日の会津駒が素晴らしかったせいか、途中撤退でもあまり残念な気がしなかった。



伊豆大島・三原山

羽藤 美代子

山行日(天候)：4月24日(晴)～25日(曇りのち晴れ)

参加者：CL 山田紀夫、SL 柳川しげよ、吉永英明、小川和敏、塩塚生二、吉田望、羽藤美代子(7名)

タイム：24日/三原山頂口 11:20→山頂剣ヶ峰 14:00→  
 大島温泉ホテル 16:00  
 25日/大島温泉ホテル 9:00→裏砂漠第一展望台  
 10:00→千波地層大切断面 11:30  
 岡田港出港 15:55



(伊豆大島・三原山)

竹芝桟橋から伊豆大島岡田港へ高速船で 2 時間。島は青空で迎えてくれた。



バスは椿の木々が道路の両側に生い茂る中をくねくねと走る。島には 300 万本のやぶ椿が自生する

という。三原山頂口でバスを降り、火山の噴火がつくりあげた風景を望む展望台で三原山をバックに皆で写真を撮る。江戸時代の大噴火で誕生した三原山は 1986 年の噴火で流れた溶岩流が黒い筋になっているのがよく見えた。上部は溶岩でそして裾野は新緑の木々で覆われ樹海のような景色で、青空にたおやかにたたずむ姿がとても美しい。

舗装された山頂遊歩道、おはち巡り、温泉ホテルコースで、のんびり、休憩しつつ、所々に鮮やかに咲く大島ツツジに見とれながらすすむと、ゴツゴツとした溶岩が多くなり山の姿が変わってきた。三原神社を過ぎ、まもなく大迫力の噴火口が現れた。火口から水蒸気が白く上がって

いて地球の息吹を感じる。1986 年の噴火でマグマが溢れて流れ出た事を思うと怖ろしさを感じた。しかし海を眺めると伊豆半島、房総半島、三浦半島、新島、神津島など伊豆諸島が見え素晴らしい眺めだ。小川さんの庭で採れた甘い金柑を頂き食べながら下山する。温泉ホテルの露天風呂からは三原山がまじかに見え絶景にしばし見とれ癒された。

翌日は山田さんが運転するレンタカーで島一周巡り。月と砂漠ラインを走り駐車場から歩いてまもなく裏砂漠の第一展望台へ。今日は曇り空で、昨日の好天の三原山とはまるで違い風が強く山の景色は砂漠そのもの。一周道路に戻り、穏やかで美しい波浮港。古い火山島の筆島、そして大きく波打つ地層が巨大なバームクーヘンに見える地層大切断面。伊豆大島ジオパークで生きている地球を味わえた 2 日間だった。



残雪の尾瀬・至仏山

坂上 光恵

山行日/天候: 4 月 30 日 (晴)、5 月 1 日 (曇)、2 日 (晴)

参加者: L 松田宏也、三品京子、坂上光恵、清水義浩 (本部理事) (4 名)

タイム: 30 日 / 鳩待峠 12:50 → 至仏山荘 14:20

1 日 / 至仏山荘 7:00 → 至仏山 10:30

→ 鳩待峠 12:45 → 丸沼高原 (泊)

2 日帰宅

1 日目、コロナの「まん延防止」や「緊急事態宣言」が連日ニュースで騒がれており、山に行くのが何となく心引けるような気がしてすっきりしないのでかけた。しかし高速道路は空いているし、予定よりずっと早く戸倉に着き、なんと鳩待峠で 1 台駐車できることが分かり、山荘に早く着いてなにしようなどと考えていた。峠からは雪がまだ多く残っているが、ところどころ沢の音が聞こえ雪解けが進んでいる。山の鼻に近づいたところで、上がってきた人たちから熊を 2 回見たから気を付けるようにと言われる。14:20 分山荘着。雪の尾瀬ヶ原がずーっと見える。お風呂にも入れ、おいしい夕食でゆっくり。30 人ほどの宿泊客。



2 日目、曇り空でも時折り陽がでてあまり寒くない。7:00 山荘発。植物見本園を抜けるとすぐ急坂が続き、ただただ雪を踏んで登ること 1 時間、少し腰を下ろせるくらいの傾斜の 1670m 地点で 1 本、

いつも来るときは人の多い時期であり周りも見ないで登っていたと思う。このルートも前に登っているのに、雪のせいもあるがよく覚えていない。しかし、今日は天候もまずまずで見通しもよくきき、振り返ると燧岳までずーっと見渡せる。またまた急登をのぼり大きな岩 (蛇紋岩) が出ているところを過ぎると急に風が強くなってきた。頂上 (2228m) がもう上に見えるところ (2075m) だが 9:35

防寒具を着ける。強風の中 10:30 分頂上着。清水さんと三品さんは早くに上がったので、頂上でホワイトア



ウトになり何も見えなく寒かったと言い、ツェルトをかぶって待っていてくれた。写真を撮って下山。スノーボーや山スキーで登ってきた人達もいて、この時期山スキーヤーがこんなにいるとは思わなかった。天気もすぐ回復し途中小至仏山の先で風もなく暖かい場所で昼食。それにしても次々と山スキーを履いたひとが登ってくる。あとは鳩待峠におりるだけだが、雪があるせいかガスったりすると林の中で道を見失う危険性があると思っていたら、2, 3 日してあの道で行方不明者がでた。というニュースがあった。

12:45 鳩待峠着。日程を 1 日ずらして行っただけで、楽しい山行になった。



## 四国・石鎚山ほか

吉田 望

## ※個人山行

山行日：5月9日（日）～5月13日（木）4泊5日  
 天候：5月9日（晴）10日（晴）11日（晴）12日（小雨）13日（曇）

参加者：CL小川和敏、SL三品京子、平出正美、宮崎美智代、吉田望（5名）

タイム：

10日/土小屋登山口 7:05→東稜分岐 8:15→  
 二の鎖元 9:00→弥山 9:55→天狗岳 10:15→  
 弥山 10:45→二の鎖元 11:45→東稜分岐  
 12:45→土小屋登山口 13:30→瓶ヶ森駐車場  
 14:20→男山 14:50→女山 15:10→瓶ヶ森  
 駐車場 15:30  
 11日/寒風山登山口 8:00→桑瀬峠 9:10→伊予富士  
 11:00→桑瀬峠 12:45→寒風山登山口 13:15  
 12日/四万十川源流の碑 8:50→源流点 9:10→  
 源水点への分岐 9:40→源水点 10:10→  
 源水点への分岐 10:25→源流点 10:30→  
 四万十川源流の碑 10:50→黒尊 17:00

日本七霊山の一つで四国最高峰の「石鎚山（1982m）」と、日本三大清流の一つである「四万十川」を巡る4泊5日の山旅に行った。

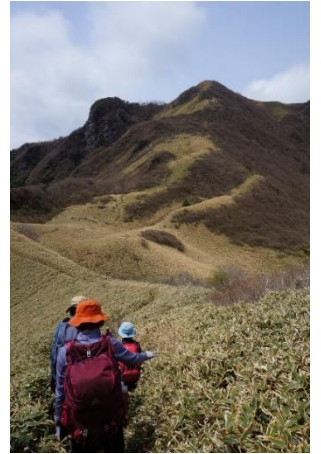
一日目。松山空港からレンタカーに乗り、「石鎚スカイライン」を通って石鎚山へと向かう。車窓に広がる四国の山姿の美しさに早くも心を奪われながら、ほどなくして登山口横の土小屋に到着。この日はここで宿泊し、明日からの登山に備える。

翌日は朝から晴天で絶好の山日和。土小屋登山口から出発し、少し登ると、眺望がひらけ濃淡の緑に彩られた大自然が広がっていた。なかでもアケボノツツジの花が見頃で、濃いピンクがブナやミズナラの若葉に映えて美しい。美しい景観とは裏腹に、東稜分岐からは落石の危険を知らせる看板が目につく。一同、気を引き締めながら岩場を進んでいくと、石鎚山の一大鎖場地点である「二の鎖元」に到着。石鎚といえば鎖場である。ここで二手に分かれ、チャレンジ組3名は65mある二の鎖に挑戦。残り2名は安全に迂回路を歩くことに。鎖場を上った先で合流し「弥山（石鎚神社頂上社 1972m）」に到着。目の前には、最高峰の天狗岳（1982m）がそびえ立つ。その勇壮で神々しい姿に一同息を呑む。ここでもチャレンジ組は弥山から天狗岳までの断崖絶壁のスリルに挑んだ。弥山の広場で昼食を



食べた後、土小屋に戻り、石鎚山の向かいに見えた瓶ヶ森（1897m）に向かった。なだらかな山容に見えたが、歩いてみると意外と傾斜がきつい。途中、男山や女山を越えていく。日が沈む前のぼんやりとした空色の中に、先ほど登った石鎚山の稜線を眺めながら駐車場に戻り、出発地点の土小屋に無事帰着。

3日目は、爽快なドライブコース「UFOライン」を走り抜け、「伊予富士（1756m）」を目指した。標高1300m～1700mの尾根沿いを走るこの道は車のテレビCMにも登場するほど有名な道。寒風山登山口に着き、そこから桑瀬峠までは急な斜面を登る。樹林帯を抜け桑瀬峠からは視界がひらける。片側は高知の緑深い山並み、もう片側には西条の町と瀬戸内海までが見えてくる。低い笹一面の気持ちの良い尾根歩きを楽しんだのちに、最後の急登を経て山



頂に上がる。そこには四国を一望する360度のパノラマが待っていてくれた。昨日登った石鎚山や瓶ヶ森など、幾重にも連なる四国山地の雄大な景色に感動した。

4日目は四万十川の源流を沢登り。雨の予報だったため、「不入山（いらずやま）」頂上まで行く計画を源水点までに変更。登山口の源流点の碑では、満開のシャクナゲの花が咲き、森の中に入っていくと、雨で元気になったカエルの鳴き声が響き渡っている。溪流に沿って登っていくと、苔むした岩肌の間から、四万十川の源となる清らかな水が流れ出ている。霧のかすむ中に、なんとか源水点と書かれた棒切れを探し当て、今回の山旅を終えることになった。不入山までは行けなかったが、日本最後の清流といわれる四万十川の神秘的な空気を感じる貴重な経験となった。今回の山旅を通し、四国の山々と瀬戸内海、そして豊かな森に育まれた清流四万十川や仁淀川流域の絶景を満喫。地域で採れた河内晩柑、アマゴやイタドリなど旬の食べ物も満喫。四国の良いところを凝縮したような山旅で、素晴らしい旅となった。



天城山

湯下 正子

山行日(天候): 5月30日(晴)

参加者: CL 小川和敏、SL 今井貴朗、宮崎美智代、  
香高真奈美、森川雅子、湯下正子

タイム: 7:00 天城高原登山口 7:00→四辻 7:20→  
万三郎下分岐 10:30→小岳 11:00→片瀬峠  
11:20~12:00(ランチ)→万三郎岳 12:30→  
万二郎岳 14:20→登山口 16:00

29日: 一日観光。旧天城トンネルは踊り子を連想。帰りに城ヶ崎海岸を回り太平洋の景観が圧巻。

30日: 天城高原ゴルフ場を7:00に出発。天城シャクナゲコースを進む。小川さんの周回コースは帰りの下山が荒れているという情報で逆回り(反時計回り)に行く。天城山は山行と言うよりハイキング気分でしたら、しっかり山行だった。百名山のひとつと聞いてびっくり。大きな岩に



緑の苔はさながら屋久島の光景と言う。晴天に恵まれ新緑が映えて気持ちの良い山だった。小岳では見事なブナ林



に感動。

片瀬峠でランチ。小川リーダーがカレーのご馳走とゼリーのデザートまで用意してくれ、コーヒーを飲んで山の食事とは思えない豪華なランチ。重いお腹を抱えて天城山の最高峰・万三郎岳に到着。次の目標は万二郎岳までのシャクナゲ街道だったが殆ど花は終わっていた。それでも気持ちを慰めてくれるように花をつけていた一本のシャクナゲに全員歓喜の声。

万二郎岳から天城高原登山口までに見事な天城ツツジが咲き誇っていた。大きなツツジの木に満開に咲いた優しい色のツツジが「天城山はシャクナゲだけではないよ」と凛と主張していた。天気にも恵まれ、花にも恵まれ、楽しい仲間にも恵まれ、美味しい食事に恵まれ、幸せな山旅でした。

ウォーキングクラブ活動報告(2月~4月)

- ① 2月14日(日)10:05~14:00 昭和の森一周 天候 曇時々晴  
コース: 土気駅ー昭和の森入口ー第一駐車場ー太陽の広場ー展望台ー秋の道・冬の道ー竹林広場ースポーツエリアー竹林広場ー下夕田池ーお花見広場ー梅園広場ー太陽の広場ー第二駐車場ー昭和の森出口ー土気駅(解散)  
参加者: 塩塚、高橋正、宇津木、節田、鎌谷、杉本 (7名)
- ② 2月27日(土)10:00~14:00 河津桜を見て江戸川河口まで 天候 晴  
コース: 市川駅ー江戸川土手ー河津桜並木ー行徳橋渡るー江戸川河口ー市川大橋渡るー江戸川土手ー妙典橋渡るーメトロ東西線妙典駅(解散)  
参加者: 新井、塩塚、節田、國宗、鎌谷、高橋正、宇津木、柳川、小川、山岡、黒住、竹園、杉本 (13名)
- ③ 3月21日(日)9:30~14:00 江戸川・野田市内 天候 晴  
コース: 運河駅ー運河土手ー江戸川土手ー野田橋ー愛宕神社(昼食)ー愛宕駅ー野田市役所前ー豊倉さん宅ー野田市駅(解散)  
参加者: 高橋正、國宗、宇津木、湯下、杉本 (5名)
- ④ 3月29日(月)10:00~14:30 おゆみ野公園巡り 天候 曇のち晴  
コース: 鎌取駅ー夏の道ーなつのみち公園ー秋の道ーあきのみち公園ー冬の道ーおゆみ野駅ー大百池公園ーはるのみち公園ー春の道ーさくら公園ー有吉貝塚公園ーおゆみ野道ー有吉公園ー京成千原線おゆみ野駅(解散)  
参加者: 塩塚、高橋正、吉田、稲川由、坂上、香高、宇津木、杉本 (8名)
- ⑤ 4月3日(土)10:00~13:30 大堀川を歩く 天候 晴  
コース: 北柏駅ー北柏ふるさと公園ー大堀川ー北柏橋ー木崎橋ー高田近隣センターー新駒木橋ー豊四季駅ー新駒木橋ーつくばエクスプレス高架下ー初石駅(解散)  
参加者: 高橋正、國宗、杉本 (3名)





- ⑥ 4月24日(土)10:00~14:30 青葉の森公園 天候 晴  
コース : 千葉駅ー中央公園ー千葉神社ー亥鼻公園ー千葉大ー青葉の森公園(昼食)ー千葉寺ー京成千葉寺駅  
ーJR 本千葉駅ー京成千葉中央駅ーJR 千葉駅(解散)  
参加者 : 梶田父子、高橋正、香高、節田、杉本 (6名)

(杉本 正夫)

## 第10回登山教室指導者育成講習会参加レポート 藤木 亥三六

4月3~4日の2日間、指導者育成講習会に初めて参加させて頂き、各方面のスペシャリストの貴重な講義を受ける事ができた。特に山の天気予測の講義が興味深く、天気図の読み方を始め、野外で実際にコンパスを使用して風の向きや雲の状況、地形などから先の天気を予測し、起こりうる危険を回避する事を学んだ。今後さらに理解を深め、これからの山行に生かしていく。他支部の方との交流もでき人脈も広がった。以下は講習会のレポートである。

### ① 新型コロナ禍の山岳遭難救助活動 長野県警山岳救助隊 岸本副隊長

近年の長野山岳遭難は10年で1.5倍増加し、令和2年は単独登山が遭難者の半数以上を占める。(遭難中の死亡率は15.8%) 加齢による認知能力の衰え等も考慮し、各々の技量・能力にあった計画を立てる。リーダーはメンバーの水分補給・トイレなどに目を配り、遭難の芽を摘む。単独行は、全ての事案を一人で対応しなければならない、発見がしづらい等のリスクが伴う。救助情報に不可欠なのは、場所、天候、視界、風の強さ、傷病の部位・程度、着衣等の色、通信手段と電池残量等。

### ② 登山指導向けの気象リスクマネジメント ヤマテン 猪熊隆之氏

天気予報を見るだけでは気象遭難は防げない、山麓・山頂の情報をチェック。気象遭難は、低体温症、落雷、沢の増水、突風による転滑落があり、近年は温暖化影響で沢の増水による遭難が増加。目的の山が風下側(海側から風が吹く)にあたるかどうか、海との位置関係・等圧線の間隔と向きを確認。等高線の間隔が狭いと暴風域で、広いと風が弱い。風速15m以上は森林限界以上危険(森林限界は一つの引き返し point)。トムラウシなどの過去の大規模遭難事故の当時の天気図・気圧配置でリスクを考えると、低気圧が通過後、東に抜け等高線が混みあう時に事故が起きる場合が多い。疑似好天かどうかを見極める。低体温症の気象遭難が起きるケースは、低気圧や台風が日本の東や北へ進み、等圧線が混みあう時(列島で5本以上、線の間隔が300kmより狭いと危険)。低体温症は初期症状が見逃され易く体温34℃までに回復させる事が生死の分かれ。落雷の危険性がある時は、岩稜帯には近づかない。(直撃せずとも広範囲に衝撃があり、岩稜帯にぶつかり致命傷) 山の鞍部は空気が通る個所で風が強まるので危険。

### ③ 野外学習 八ヶ岳パノラマトレイル蓼科・八ヶ岳展望コース ヤマテン 猪熊隆之氏

雲で風の向き、流れを感じ、海からの風向きを意識する(風上の空を見る)。地上の風向きと上空の風向きは違う。雲が交差する所は天気が崩れる。西から東に雲が流れていく場合は、西の空(日本海側)の天気に留意。低気圧が通過するパターンは日本の南海上に低気圧が通る、日本海を通る、南海上・日本海両方同時に通る3つ。南海上に低気圧が通過する時は温暖前線が近づき、徐々に天気が悪化。日本海から低気圧が通過する時は急に寒冷前線がきて積乱雲が現れ急激に天気が崩れる。天気が変化するのは、地上から約12kmの地点。雲は新陳代謝を繰り返し、常に生まれ変わっている。

## 支部山行の予定

- 山行の心得 — リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

「連れて行ってもらおう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山城、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

日本山岳会千葉支部

| リーダーの連絡先 |                               |
|----------|-------------------------------|
| 杉本正夫     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 松田宏也     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 三木雄三     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 三田 博     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 山口文嗣     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 山田紀夫     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 小川和敏     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 三品京子     | 支部だより(印刷版)を参照                 |
| 山本哲夫     | 支部だより(印刷版)を参照 libachi エルアイ・・・ |
| 今井貴朗     | 支部だより(印刷版)を参照                 |

《 難度 》

W ウォーキング

A 整備され歩行 2 ～ 3 時間

B 歩行 5 時間前後

C 歩行 7 時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度は JAC 日本 300 名山を参考。岩・沢及び積雪期は  
難度アップとする。)

個人山行も計画書提出を；

送信先；[chiba\\_jac@yahoo.co.jp](mailto:chiba_jac@yahoo.co.jp) #を@に替えて



山 行 の 予 定 (9月～12月)

| 日 程                   | 山 名        | コース・備考                           | 難度 | 締切日       | 係  |
|-----------------------|------------|----------------------------------|----|-----------|----|
| 9月4日(土) ～ 9月5日(日)     | 瑞牆山        | 自然公園テント泊、不動滝コース                  | C  | 8月22日(日)  | 今井 |
| 9月12日(日) ～ 9月13日(月)   | 鬼怒沼湿原      | 夏中止のため再計画                        | B  | 8月15日(日)  | 松田 |
| 9月12日(日)              | 御成り街道周辺①   | 船橋～実叡間                           | W  | 9月5日(日)   | 杉本 |
| 9月19日(日)              | 真間川を歩く     | 6月中止の分                           | W  | 9月12日(日)  | 杉本 |
| 9月24日(金) ～ 9月25日(土)   | 鳳凰山・観音岳    | 青木鉱泉から(マイカー)                     | C  | 8月20日(金)  | 小川 |
| 9月25日(土) ～ 9月27日(月)   | 妙高山        | 燕温泉から(マイカー)                      | C  | 8月20日(金)  | 三品 |
| 10月3日(日)              | 花見川・ポートタワー | 1月中止の分                           | W  | 9月26日(日)  | 杉本 |
| 10月6日(水) ～ 10月9日(土)   | 涸沢・奥穂高     | 前夜発、車、テント泊                       | D  | 9月6日(月)   | 山本 |
| 10月9日(土)              | 茅ヶ岳        | 深田久弥、終焉の地を訪ねて                    | B  | 9月12日(日)  | 今井 |
| 10月9日(土)              | 御成り街道周辺②   | 実叡～四街道間                          | W  | 10月2日(土)  | 杉本 |
| 10月15日(金) ～ 10月16日(土) | 縞枯山        | 《自然学》縞枯れ現象の謎を<br>学ぶ。山小屋泊・先着 10 人 | B  | 10月1日(金)  | 三木 |
| 10月22日(金) ～ 10月23日(土) | 両神山        | 日向大谷から(マイカー)                     | C  | 9月20日(月)  | 小川 |
| 10月23日(土) ～ 10月24日(日) | 会津朝日岳      | 避難小屋泊                            | C  | 10月3日(日)  | 松田 |
| 10月30日(土)             | 日光・寂光沢     | 東照宮近くで沢登り・日帰り                    | C  | 10月15日(金) | 三田 |
| 11月7日(日) ～ 11月8日(月)   | 赤城山・榛名富士   | 百名山                              | B  | 10月10日(日) | 松田 |
| 11月7日(日)              | 倉岳山、高畑山    | 富士山を望む静かな山                       | C  | 10月24日(日) | 今井 |
| 11月7日(日)              | 御成り街道周辺③   | 四街道～千城台間                         | W  | 10月31日(日) | 杉本 |
| 11月13日(土)             | 房総・木ノ根峠    | 希望者は房総ベース泊で芋煮会も                  | B  | 10月30日(土) | 三田 |



日本山岳会千葉支部

| 日 程                         | 山 名     | コース・備考            | 難度 | 締切日          | 係  |
|-----------------------------|---------|-------------------|----|--------------|----|
| 11 月 20 日(土)                | 山梨・王岳   | 西湖から 富士山の眺め(マイカー) | B  | 11 月 10 日(水) | 小川 |
| 11 月 21 日(日)                | 子ノ権現と竹寺 | 奥武蔵・足腰の神様にお詣り(電車) | B  | 11 月 13 日(土) | 三田 |
| 11 月 22 日(月)                | 成田街道周辺① | 津田沼～習志野間          | W  | 11 月 15 日(月) | 杉本 |
| 12 月 5 日(日)                 | 白狐峠と小鋸山 | 房総キャニオンとキレット周回    | C  | 11 月 28 日(日) | 三田 |
| 12 月 11 日(土)                | 群馬・子持山  | 岩場有り(マイカー)        | B  | 12 月 1 日(水)  | 小川 |
| 12 月 11 日(土)                | 行徳から江戸へ | 旧江戸川・新川沿いに        | W  | 12 月 4 日(土)  | 杉本 |
| 12 月 18 日(土) ～ 12 月 19 日(日) | 房総の沢⑧梨沢 | 沢歩き、房総ベース泊で忘年会    | C  | 12 月 10 日(金) | 三田 |
| 12 月 18 日(土)                | 栃木・石裂山  | 岩山(マイカー)          | C  | 12 月 10 日(金) | 小川 |
| 12 月 22 日(水)                | 成田街道周辺② | 習志野～勝田台間          | W  | 12 月 15 日(水) | 杉本 |
| 12 月末<br>2 泊～3 泊            | ハヶ岳     | 天狗岳方面、日程相談        | D  | 11 月 28 日(日) | 松田 |

● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。  
また、山岳保険には必ず加入してきてください。

① 氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号、④緊急連絡先氏名(続柄)・電話番号  
 ※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。  
 山行によって、定員を設けています。技術・体力不足、力量不明の場合はお断りすることがあります。

**コロナ対策:密集を避け、山小屋などではマスク着用など決められたルールに従いましょう。**

**お知らせ**

—事務局より—

≪松田支部長が日本山岳会理事に就任≫

6 月 19 日(土)に行われた日本山岳会・令和 3 年度通常総会で、松田支部長は本部理事に就任致しました。  
千葉支部長と兼任となります。

● JAC 千葉支部 2021 山の日講演会

5 月の支部総会が中止になりましたので、昨年と同様に 8 月の山の日に講演会を開催します。また支部スケッチクラブの絵画、会員の山の写真も展示いたします。

日 時 8 月 8 日(日)

場 所 千葉市文化センター9 階 (千葉中央ツインビル 2 号館) 千葉市中央区中央 2-5-1

9:10 受付開始 9:40～10:40 講演「コロナ時代の登山」

講師 柏澄子さん(山岳ライター、JAC 理事)※プロフィールは前号に掲載

10:50～11:50 山の映画「チョモランマ 遙か」

1995 年の日大隊によるエベレスト北東稜完全登攀の NHK 記録番組

※ 会場の都合により、定員は 50 名迄となります。

参加される方は事務局長の三田まで。ta84372#jb4.so-net.ne.jp Tel090-9158-3065

#を@に替えて送信

● 役員会報告

○3 月報告 3 月 17 日(水)リモート(松田、三田、山口、小川、高橋、塩澤、三品、上村、山本)

◇山行・行事報告 2/14 昭和の森 W、2/27 江戸川河津桜 W、その他個人山行

◇山行・行事予定 江戸川 W、指導者講習会など◇検討事項 古道調査、役員改選

○4 月報告 4 月 14 日(水)リモート(松田、山口、山本、山田、高橋、塩澤、小川、三品、三田)

◇山行・行事報告 3/23 江戸川野田 W、3/25 三頭山、3/29 おゆみ野 W、4/3 大堀川 W、4/3・4 沼津  
アルプスと愛鷹山、4/10 鋸山、4/10 蓑山、指導者講習会、個人山行

◇山行・行事予定 長者ヶ岳と毛無山など◇検討報告事項 総会開催是非について（中止決定）、山の日  
イベント、房総ベースについて、コロナ対応の確認、古道プロジェクト、ホームページ改訂、役員改選  
について、支部連絡会議報告、入退会報告

○5月報告 5月19日（水）リモート（松田、山口、山本、山田、塩澤、甘楽、小川、三品、杉本、三田）

◇山行・行事報告 4/18・19 長者ヶ岳・毛無山、4/18 西棚ノ沢、4/22~24 会津駒と窓明山  
4/24 青葉の森 W、4/30~5/2 尾瀬至仏山

◇山行・行事報告 岩殿山、天城山など◇検討報告事項 房総ベースについて、古道プロジェクト、ホー  
ムページ改訂、支部だより、入退会報告など

### ● 千葉支部第14回通常総会決議について

日本山岳会千葉支部の第14回通常総会・書面議決をおこないました。急なお願いにもかかわらず、多くの  
会員から書面議決書のご返送をいただくことができました。令和3年6月15日に締め切りさせていただきました。  
その結果について下記の通りご報告いたします。

会員総数 94名 書面議決書提出数 70名（提出率 74.5%）

報告事項 1、令和2年度事業報告（令和2年4月1日~令和3年3月31日）

2、令和2年度収支決算報告

3、令和2年度会計監査報告

本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項 第1号議案 令和3年度 事業計画承認の件 賛成 70名、反対 0名

第2号議案 令和3年度 収支予算承認の件 賛成 70名、反対 0名

第3号議案 支部役員承認の件 賛成 70名、反対 0名

各議案は、原案通り承認可決されました。

### ● 2021年度役員分担

今年度の役員の役職と担当は下記の通り決まりました。

#### ◇執行部

松田宏也（支部長）  
山本哲夫（副支部長・山行・技術遭難対策）  
三田博（事務局長・山行委員長・沢登り同好会）  
三品京子（会計/事務局・山行）  
山口文嗣（山行・古道 PT リーダー）  
小川和敏（広報委員長・山行）  
三木雄三（公益委員長・自然学同好会）  
山田紀夫（山行）  
杉本正夫（山行・ウォーキングクラブ）

#### ◇顧問・監事

吉永英明（顧問）  
甘楽敦夫（監事）  
能美勝博（監事）

#### ◇協力委員

谷内剛（自然保護・広報）  
上村紀子（山行）  
香高真奈美（公益）  
今井貴朗（山行）

### ● 会員・会友の動向

《入会・会員》 支部だより(印刷版)を参照下さい

W.T さん（16706・茂原市） 会友から会員

H.M さん（16712・茂原市） 会友から会員

N.A さん（16740・新宿区） 準会員から会員

Y.M さん（16790・国立市）

I.T さん（16791・大網白里町） 会友から会員

Y.N さん（16793・国立市） 会友から会員

K.S さん（松戸市） 入会手続き中

《入会・会友》

K.K さん（千葉市）

《退会》

W.S さん（14589）、K.A さん（16137）、H.S さん（準会員） W.S さん（会友）、F.K さん（会友）、I.T さん（会友）、N.N さん（会友）、Y.T さん（会友）



編集後記；編集4回目です。基本的に前号の体裁を踏襲しています。今後、皆さまのご意見を戴きながら、  
より良い「支部だより」にしていきたいと考えています。宜しくお願いいたします。

梅雨の時期、雨の日にアジサイがとても似合う感じがします。家のガクアジサイも咲いてきました。花といえ  
ば、先日の天城山のシャクナゲは例年より10日ほど早く終わっていました。

津田沼のヨシキスポーツさんには役員会会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品  
を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。（小川和敏）

三陽メディア株式会社